

前立腺肥大症の手術で排尿障害が悪化 繰り返されたブジーによりますます悪化

Sさん（70代、男性、熊本県）

前立腺肥大症の手術後、尿が出ない

2005年7月、64歳のときでした。尿の出が悪くなったので近隣の泌尿器科を受診しました。前立腺肥大症と診断され、前立腺を摘出する手術をすることになりました。手術は経尿道的切除術です。前立腺を取り出す手術は成功しましたが、尿道カテーテルを抜いたあとも尿の出はよくありません。日に日に尿の出が悪くなり、退院の日について尿が出なくなっていました。

繰り返し返される拡張術

尿道が傷ついて狭くなっていることが尿が出なくなる原因でした。それから連日ブジーを行

いましたが、軽快することなく、とうとう2カ月あまり入院していました。

退院後も、ブジーにより尿道を拡張する治療を続けました。初めのころは1カ月に1回行っていました。が、だんだん拡張の効果が持続しなくなってきたので、3週間間隔になりました。半年間、この治療を続けましたがよくなる気配はなく、反対に尿閉を起こして病院に駆けつけたことさえありました。

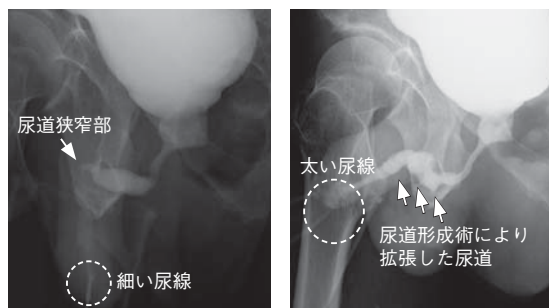
半年後に主治医が代わり、ブジーによる拡張だけでなく、他の方法もいろいろ試してみました。2009年、内尿道切開を行いました。2カ月後にはふさがってしまい再びブジーの治療に戻りました。2011年12月には、尿道ステントを留置しました。ところが2012年2月、尿道ステントが狭窄したところから膀胱方向にずれて移動してしまい、困難の末取り出してもらいました。それ以来、尿道ステントはことわりました。

頬の粘膜を利用した二期的手術で絶対に治ると確信した

排尿の悩みはさまざまでした。いつ尿が出なくなってしまうか気が気ではありません。外出もままならず、遠出もできません。日常生活は味気ない、おつくうなものでした。

尿道ステントのトラブルがあったころ、主治医から尿道形成術の話聞きました。ステント

Sさんの画像



(左) 尿道形成術前、尿道狭窄部で尿の流れが悪くなり、外尿道口からの尿線は非常に細くなっています。

(右) 口腔粘膜を利用した二期的尿道形成術後、狭窄部の内腔は拡張し、尿道の出口からの尿線は太くなりました。

送っています。先日2年目の診察を受け、順調な回復を告げられて安心して帰宅したところで、体が以前のように動かせるので、町の世話役のような仕事も積極的に引き受けて楽しい老後を過ごしています。

【解説】

前立腺肥大症で経尿道的手術を行ったあとに振子部尿道狭窄症になってしまった患者さんです。振子部の尿道狭窄症は内尿道切開やブジーといった簡便治療の効果が乏しいのです。こじらせて尿道の内腔がほぼ完全に閉塞してしまっていたので、口腔粘膜を利用した二期的手術が必要になりましたが、無事に快適な生活を取り戻せました。

(堀口)

を再び留置するのも、ブジーも、内尿道切開も続ける気はなかったので、尿道形成術の話に救われたような気がしました。そこで、防衛医科大学校泌尿器科の堀口先生のサイトをインターネットで調べてみると、まさに自分と同じ症状の人が紹介されていて、治ると確信したので、さっそく主治医に紹介状を書いていただき、防衛医科大学校病院の相談室へ連絡をとり、2012年2月に受診しました。

あたりまえに活動できることがうれしい

インターネットのサイトですでに調べていたので、堀口先生の治療の説明はよく頭に入りました。受けた治療は、頬の粘膜を使った二期的手術です。1回目の手術後の口の中の痛みはそれほどではありませんでした。食事ができるまではアイスクリームでまぎらわし、1週間くらいで普通に食事ができました。

半年後に2回目の手術を受けました。入院中は、いよいよ排尿困難から解放されるといううれしい気持ちでいっぱい、術後の痛みはあまり気になりませんでした。手術は無事に成功し、7年ぶりに気持ちよく自力排尿ができるようになりました。

現在、退院して2年が過ぎようとしています。ブジーもステントも必要ない、快適な生活を